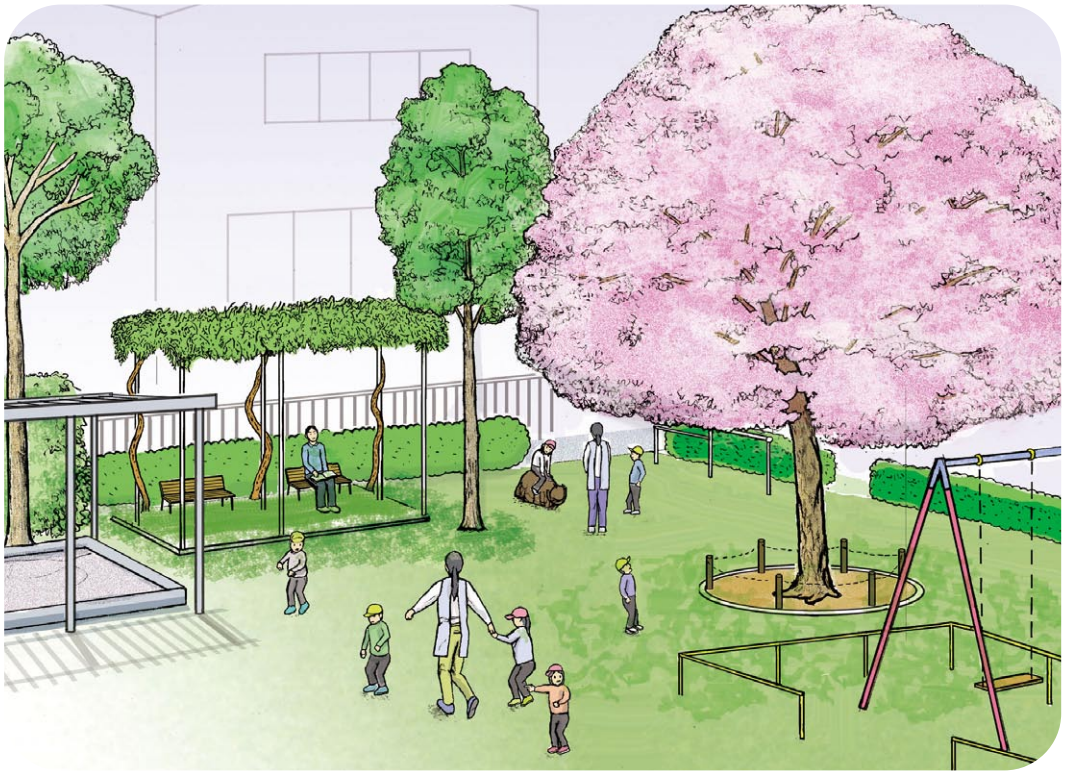
目黒のサクラ再生計画
「児童遊園サクラ再生実行計画」（概要版）

平成30年3月
目黒区



ー内容ー

サクラ再生実行計画の考え方・・・

■サクラ再生実行計画の考え方

児童遊園は、児童の健全な遊びと健康の増進により豊かな情操を育むことを目的として、区内に49カ所設置されており、小規模ながら身近な遊びや憩いの場、自然とのふれ合いの場として地域に親しまれている。

桜が植栽されている27カ所の児童遊園において、樹木診断を行い問題点を整理し、桜の維持管理や植替えの方針について検討して、児童遊園サクラ再生実行計画とする。

桜のある27カ所の児童遊園

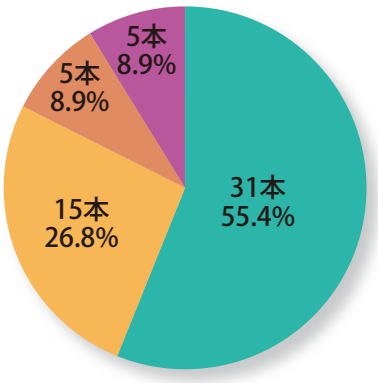
1. 駒場児童遊園	2. 大坂上児童遊園	3. 東山児童遊園
4. 目黒銀座児童遊園	5. 上四児童遊園	6. 中目黒一丁目児童遊園
7. 茶屋坂児童遊園	8. 目黒東児童遊園	9. 下二児童遊園
10. 下六児童遊園	11. 油面住区センター児童遊園	12. 五本木児童遊園
13. 上目黒住区センター児童遊園	14. 中央町一丁目児童遊園	15. 清水東児童遊園
16. 月光町児童遊園	17. 東原児童遊園	18. 向原おもだか児童遊園
19. 原町児童遊園	20. 碑文谷五丁目児童遊園	21. 鷹番児童遊園
22. 緑が丘児童遊園	23. 柿の木坂西児童遊園	24. 柿の木坂児童遊園
25. 曽根児童遊園	26. 第二曽根児童遊園	27. 宮前児童遊園

■概況

桜がある児童遊園27カ所には、桜は全部で56本あり、桜が1本だけある児童遊園は14カ所で、最も桜の本数が多い児童遊園は碑文谷五丁目児童遊園で、6本の桜がある。桜の幹周の平均値は約170cmで、最大は柿の木坂児童遊園の288cm、最小は植替えして間もない上四児童遊園の25cmであった。大きくなったサクラでは、心材腐朽が見られるが、おおむね樹勢良好で腐朽に対して強く抵抗している。また、枝葉を伸ばせる範囲が制限されていたり、日当たりが悪い場所に植栽されていることから、問題が生じているものもある。

■児童遊園の桜の樹木診断結果

全部で56本の樹木診断を実施
・半数以上がA判定（健全か健全に近い）
・剪定で枝が切り詰められたための樹形不良によるB判定（注意すべき被害）が多い
・大木で心材腐朽が生じC判定（著しい被害）、D判定（不健全）がある



児童遊園樹木診断総合結果

判定	数量（本）	割合
A（健全か健全に近い）	31	55.4%
B（注意すべき被害）	15	26.8%
C（著しい被害）	5	8.9%
D（不健全）	5	8.9%
計	56	

■現状と問題点

問題点	状況	原因	影響など
キノコ (心材腐朽菌)	 コフキタケ ベッコウタケ	・桜は大径木になると心材腐朽の発生する確率が高くなる	・腐朽が進行すると、折れたり倒れたりする危険が大きくなる ・樹勢の衰退を伴うと、心材腐朽に対する抵抗力が低下する
剪定 (強剪定)	 強剪定で枝数少 被圧衰弱枝を強剪定	・道路や民有地に枝が伸びると、支障枝として剪定する	・強剪定は樹木への負担となり樹勢衰退、心材腐朽菌の侵入、進行につながる
植栽間隔が狭い	 被圧で頂端部の枝欠損、 左側に枝が伸長 下枝がなく、ひょろ長い	・大径木となったため隣の樹木との競合が生じる	・隣の樹木と光を奪い合うことで桜の生育が阻害され、樹勢衰退につながる
日当たりが悪い	 南側に建物があり日陰に ケヤキ(左)の陰。枝は右へ伸長	・桜は日当たりを好む樹種であるため、日陰にある桜は日の当たる場所に枝葉を伸ばす	・樹勢樹形が悪くなり、樹勢衰退につながる
露出根	 桜の周囲はダスト舗装 桜の根元周りにベンチ。根元保護	・根元周囲のダスト舗装などで桜の根が張る範囲が制限されたため、根が地上に現れる	・地上に現れた根が踏まれるなどして傷がつくと、傷口から腐朽菌が侵入しやすくなる
根系の生育範囲が狭い	 植栽桝が狭い。柵で根元保護 植栽桝が狭い	・植栽桝が狭いため、根は植栽桝の外側（舗装部分）の下に張る	・根が伸長した上部（植栽桝の外側）舗装部分が、締め固められていたり非透水性であったりすると、桜の根の生長は抑制され樹勢衰退につながる

■児童遊園の桜の将来像

現在の桜を適切に維持管理して、出来る限り長く残していき、危険や枯損などが起きたものについては植替えを進めていく。植替え品種や植栽位置などは各児童遊園の植栽環境に適したものとする

児童遊園の改良工事を行う際は検討会を開催して住民参加により整備内容を検討することを基本としており、改良工事に合わせて植替えを行う場合は、住民意見を取り入れながら植栽位置、植替え樹種等を検討する。

児童遊園の安全性の確保

桜自身の起こす事故と桜があることによって起きる支障をなくす。

①診断による危険木の抽出と伐採、剪定

桜が大きくなったことに伴って、心材腐朽も多く発生している。心材腐朽に抵抗するためには、桜の生長を維持し幹辺材部の肥大成長を良好にしておく必要がある。

危険な場合は、風の影響を軽減するための剪定を行い、樹形を小さくすること、支柱を設置することなどが必要となる。また、折れる危険のある枝は、適切に剪定する。

心材腐朽の発生や進行を抑えるために、根元周囲の傷害や樹勢の低下を避けることが必要である。また、幹の肥大成長の障害となるものがあれば、取り除くことを検討する。

②植栽できない箇所

児童遊園では、遊具で遊ぶ児童の安全を考えることが必要である。遊具の安全な利用の観点から、安全領域を確保するために遊具と樹木の配置について検討し、障害物となる場所への植栽は行わない。

基本方針

①日当たりの確保

基本的に桜は日当たりの良い場所を好むため、他の樹木との間隔を確保して、日当たりが良く、枝葉を十分に伸ばすことのできる場所とする。

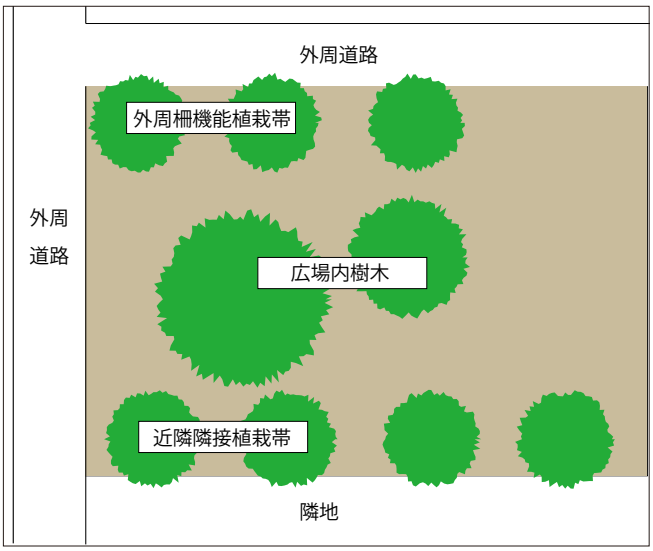
②根元周りの保護

根元周りを保護するため、根元周囲に柵やベンチを設置したり、一段高い位置にしたりすることで被害を緩和できる。植栽桝はやや広く、根元には低木などを植栽すると良い。

③根系の保護

桜の根の健全な生育のため、植栽桝を作る際や樹木周りを舗装する際には、土壌を強く固め過ぎないこと、透水性を確保することが大切となる。

植栽地区分別の方針



①外周柵機能植栽帯

維持管理：外周道路側の支障となる枝は剪定。近隣からの景観も確保するような樹形を保つ剪定を行う。

植替え　：道路側には建築限界があり、高さ4.5m未満の位置には枝を伸ばすことができない。盃状のものや、植栽桝幅が広く取れる場合は広卵状の種類の植栽を検討する。道路近くで風通しが良く乾燥しやすいので、強健な性質のものが適している。
例）カンザン、イチヨウなど。

②近隣隣接植栽帯

維持管理：近隣側の枝は、支障を無くすために適宜の剪定を行い、公園の内側に枝を伸ばす樹形を保つ。園の中央方向へ伸びる枝を育てる。隣木の生育状態をみて、隣木を間伐することも検討し、日当たりを改善することも考える。

植替え　：新たに植栽する場合は、日当たりや隣地への支障を想定して、できるだけ中央寄りに植栽する。植栽後は、将来の樹形を想定した剪定を枝が細いうちに行う。種類は、やや小型で盃状の樹形となるものの植栽を検討する。ソメイヨシノは都市環境においての生育実績があり、剪定による樹形のコントロールができることから大型ではあるが適していると言える。
例）コヒガン、キリンなど。

③広場内樹木

維持管理：踏圧などの被害を受けやすいので簡易な木柵を設置する。樹勢が衰退した場合などは、樹勢回復措置を検討する。桜の周囲の既存の植栽桝、ベンチや縁石などは根元や幹が太くなった場合は設置し直す。また、広場の下の土壌に根が張るよう、広場の土壌を固め過ぎない、透水性の舗装とするなど配慮する。

植替え　：広場内の桜には緑陰を作ることが求められる。大型の品種で傘状の樹形となる種類の植栽を検討する。
例）エドヒガン、オオシマザクラ、コシノヒガンなど。

■維持管理

植栽計画とその後の管理

将来像に基づき、点検あるいは診断の結果、「不健全」と判定されたものや枯れたものは伐採し、将来を通じて生育が可能であると判断された場所には植栽を行う。枝葉を伸ばすことのできる範囲が限られている場合は、枝がまだ細いうちに、将来の樹形を考慮した剪定を行う必要がある。また、舗装の表層近くには根が育たないこともあるので、植栽桝はできるだけ広いものが望ましい。

＜植替え時とその後の望ましい維持管理＞

・**植替え時**・・・・・・・・・・・・・植栽環境の確認（植栽間隔、日当たりが十分あるかを確認）
適期の植栽と、より広い範囲での植え穴の掘削

・**植栽後1年経過時**・・・・・・幹巻きの撤去（幹巻きをしていた場合）
・**植栽後3年経過時**・・・・・・支柱の必要性の検討（支柱撤去または支柱据え直し）
・**植栽後3～5年経過時**・・・整枝剪定（近隣への支障、隣接する道路の建築限界を鑑み、将来の樹形を考慮した剪定）

＜日常の維持管理＞

維持管理項目	内容
支障枝の切除	太い枝を剪定した場合などは剪定した箇所から細枝が多数発生する。これらのうち条件が良好な枝が残り、他は枯れていくことになる。このような支障枝は、枯枝となる前に枝を選択して切除するのが有効である
無駄枝の剪定	立ち枝や逆さ枝、重なり枝など無駄な枝を出すことがある。将来的に枯枝となる可能性があるので、適宜切除することが必要となる
枯枝、危険枝の切除	古く大きくなった木には、樹勢が弱ったものがある。樹勢が衰退する樹木は、自ら枝を衰退させて減らし、落枝させることがある。また大枝付根などに傷がついた場合、そこから腐朽が進行して枝を落とすことがある。これらは点検等によって見つけ、適宜切除することが必要となる
害虫の駆除	桜は樹冠を大きく広げているので、害虫の発生が部分的にあってもその規模は大きく、苦情の対象となることがある。害虫の駆除は、出来る限り発生初期の虫が寄り集まっているときに、捕殺することが望ましい
施肥	樹木に対しては施肥を行うことはほとんど必要ない。しかし、桜に対して施肥は活力増進に良く効くので、活力の弱っているものには簡易で有効な手段となる。肥料はくるみ状の緩効性の固形肥料を用い、樹木周囲につぼ穴を掘ってそこに適量を埋めるという簡易な方法をとる
樹木点検	大きい桜を中心に、3～5年に1回の点検作業を行い、キノコの発生、損傷の発生、枯枝・落枝の危険の発生について調査し、適宜必要な対処処置を挙げることが求められる。過去の診断カルテを参考にして、幹内部の腐朽が相当程度進行しているものを抽出する
樹木診断（精密診断）	樹木点検によって、幹内部や根株内部に相当程度の腐朽があると疑われるものについては、貫入抵抗測定機を用いた精密診断により、内部の腐朽程度を推定し、処置の必要性について判定する

桜の管理トピック　樹勢回復

児童遊園の桜は概ね樹勢が良く、樹勢回復の必要は現在無いと思われるが、ダスト舗装に囲まれた樹木などは、将来的に根系の生長が制限されて樹勢が衰えることも考えられる。

樹勢回復の措置としては、桜には肥料が良く効くので、固形肥料を散布することが考えられる。これは簡易に実行することができるので、桜守活動のひとつとしても良い。それでも樹勢が回復出来ない場合は、桜の周囲の土壌に改良を加えると効果が高い。

根元の腐朽空洞部や根元周りの固結した土壌に、高圧の空気で細い縦穴を空け（ファインノズル工法）、土壌改良材や赤玉土などを流し込み、新たな細根の発生・発達を促進させる工法がある。下図のように根が露出している桜は、その他の根も浅い所に広がっている。細縦穴を空けることにより、今まで根を張っていなかった深い位置まで多くの根が伸びるようになり、樹勢を回復させ、樹体の支持力が増加する。

ファインノズルによる圧縮空気を用いた細縦穴掘削作業中

赤玉土充填後の状況

目黒区内の多くの場所は関東ローム層の赤土（赤玉土の原料）である。強く締め固められている場合には、桜は根の伸長範囲を制限され、樹勢不良となる。この赤土の部分に細縦穴掘削を行えば、新たな根が土壌深くまで伸長することになる。深い位置まで根を伸ばすことで水分の吸収が容易になり、乾燥する期間にもよく耐える桜となり、同時に支持力も増加して倒れにくい木になる。

■住民参加型の維持管理：桜守活動

地域の方々が桜の保全活動に参加して日常的に桜を見守ることにより、より良い維持管理をすることができるとともに、地域のコミュニティ形成や活性化が期待できる。地域の桜を地域で守る桜守活動は各地で行われており、目黒区でも住民参加により桜を保全し、地域の財産として、地域に愛される桜の景観を形成していくことを目指す。

＜桜守活動として考えられる活動内容＞

①日常的な点検・観察作業

日常的に樹木の健康状態、樹木周囲の状況の観察は重要な桜守活動となる。これにより、桜の変化や異常を素早く発見し、施肥や樹勢回復作業、支障枝の剪定、害虫駆除などを必要な箇所から適切に行うことが可能となる。

②維持管理作業

桜守活動で行える作業としては、固形肥料の散布などがある。また、樹木周りの清掃、花びらや落ち葉の清掃を行うことにより、桜のある児童遊園の魅力はより一層増すと期待できる。

③桜のPR活動

桜のPR活動として、観察会や維持管理作業の内容を発信していくことも有意義である。また、桜の開花情報の発信や樹名板づくりなどにより、多くの人に桜への関心、親しみを持ってもらうことができる。